

当院生理検査室 災害時の動きについて

◎渥美 友貴¹⁾一般財団法人 芙蓉協会 聖隷沼津病院¹⁾

【はじめに】近年、日本各地において大地震の発生が増加しており、地震発生から津波の到達まで約5分と言われている中、駿河湾に面して立地している当院においてはマニュアルの整備が急務である。既存の病院防災マニュアルでは大まかなことしか記載されておらず、速やかに行動できない懸念があり、また津波に対応していないなど不備がある。今回は防災整備の第一歩として、まずは生理検査室内におけるマニュアルを改訂することとした。

【取り組み】既存の生理検査室防災マニュアルを用いて地震を想定した防災訓練を行い、訓練に参加した生理検査スタッフより意見を求め、問題点の洗い出しをおこなった。次に問題点を改善した改訂後の生理検査室防災マニュアルを用いて同様に訓練を実施し、マニュアルの改訂によって問題点が解決したかのアンケートを実施した。

【結果】既存マニュアルを用いた訓練では①指示が簡素すぎて具体的にどう動けばいいかわからない②他の人と行動がかぶる③他の人が実施したと思い誰も実施しなかった④患者用のヘルメットが用意されていないなどの問題点が

挙がった。①・②・③への改善として、まずは災害時行動メモを作成。それを生理検査の各部屋に掲示し、災害時にはその部屋の点検をする人が災害時行動メモのカードを手を持ち点検し、点検終了後に部屋の扉に完了印を貼る運用に修正した。アンケートからは、「運用を修正したことにより、無駄な動き、確認漏れなどを解消することが出来た。」の回答を得た。④の問題点に対しては、タオルケットを常備することで、患者の身を守る術を確保した。

【考察】災害時には津波の発生も想定し、速やかに目の前の患者を避難させることが生理検査室スタッフの役割として大切であると考え。今回のマニュアルの見直しによって、実際の災害時には、無駄な動きや行動の漏れを無くすることができ、かつ速やかに患者の避難を完了させることができると考える。今後は病院組織の一員として、病院全体の患者避難を完了させるために他職種との連携を強化していきたい。

連絡先：055-952-1023